



# やかただより

広川町  
全戸配布

第101号  
平成31年3月

## 「梧陵語り部ジュニアクラブ」発表会

平成30年4月に始まった「梧陵語り部ジュニアクラブ」の学習発表会が2月2日(土)に「稲むらの火の館」3階ガイダンスルームで開催されました。広小学校5年生と南広小学校6年生のそれぞれ5人ずつが参加して、1年間勉強してきました。この1年間「語り部サークル」のメンバーが交替で講義をしてきました。参加した小学生は普段学校で勉強している「濱口梧陵」「稲むらの火」「津波防災」の内容より深く学習しました。



2月2日の発表会には、約70名の保護者等の皆さんが来られ、ガイダンスルームはほぼ満員になりました。子ども達は大きな声ではきはきと発表しました。また新聞、テレビ、ラジオ等の取材の方々も大勢来ていただき、当日のテレビや翌日新聞のニュースでも大きく取り上げられました。発表会の前の週に行なわれたリハーサルの時に取材された和歌山放送は防災番組や、ニュースの録音CD盤を全員に配布していただきましたが、子ども達のインタビューは、名前が分るようになっていました。リハーサルの時に欠席等でインタビューに洩れていた3人は、本番の後でしていただく配慮もあり、うれしいことでした。

発表会終了後に、広川町教育委員会松林教育長から「梧陵語り部ジュニア」の認定証が授与されました。1年間学習してきたことは、大人も知らない事もあり、家族や友達にも広く伝え、防災に役立てていただける事を願っています。

## テレビの取材がありました

前項の語り部ジュニア発表会でもテレビの取材がありましたが、2月には何回かのテレビ取材がありました。テレビ和歌山の「国土強靱化が郷土を守る」は毎週土曜日の夜11時前に放送されています。防災に関する事が放送されていますが、「稲むらの火」に関する内容が度々放送されています。放送時間は少し遅いですが、和歌山県の防災についてもよく分る番組です。

次に2月14日には、読売テレビとテレビ岩手が合同で取材に見えました。「3・11東日本大震災」へ向けての番組制作とのことです。防災教育をテーマとしているということで、小学校の見学がある日を目ざして来られました。この日、和歌山市の貴志小学校が見学の予定があり、館内と堤防見学の様子を撮影されました。平日夕方の「TEN」という番組で、今のところ3月6日の放送だそうです。堤防では、語り部サークルの西本さんと佐々木さんの案内風景と終了後のインタビューを撮影していました。



## インドネシアからのお客様

先日、インドネシアコミュニティラジオ協会の会長さんがお見えになりました。同時に、世界コミュニティラジオ放送連盟アジア太平洋地域副代表も兼務されています。同国の大学教授等3人



でした。神戸のエフエムわいわいの理事さんと、エフエムわかやまの理事長さんが同行されていました。

地震、津波の多いインドネシアのマスコミ関係者ですので、熱心に館内を見学されました。特に、館内の「アチェ津波博物館」コーナーでは細かく見てまわりました。また、歓迎のインドネシア国旗にたいへん喜んでおられました。

『安政聞録』 翻訳文 (その1)

原作・古田 詠処 養源寺蔵

4日地震、諸人村を離れ逃げ去る事

5日、諸人帰村の事 ○附・井戸水が枯れる事  
○ならびに大地震及び高波諸人が再び逃走して騒動となる事

濱口大人が知恵を出し火を放ち、諸人を救う事  
溺死した人の事 附・不思議に、命を拾った人の事。諸人いろいろな所へ落ち行き或は野宿の事  
○諸人への結びの言葉 食事を賜る事ならびに  
○波が鎮まる事 ○盗賊の噂

6日未明諸人広へ見回りに帰る事 ○広の市中招く事。寺社の破損ならびに諸物流の失亡及び溺死した人を救う事 市中の諸家名流失詳細図  
○波が上がり続けた事 ○狂歌 小屋を救う事  
附・施工の事 ○諸人次々と帰村の事 大晦日地震の事○濱口大人仁恵土堤を築くこと

10月23日夜地震がおこり広中騒動の事  
井戸水が濁った事 ○広の平治八幡においてご祈祷並びに(なにかを)まいて諸人集まり喜ぶ事  
大尾・湯浅、高波の事

後日の奇談 ○酒論の事 ○並びに他村  
○女房を間違えて背負って逃げる事

天のもたらした災いは避けることができるが  
自らがもたらした災いからは逃げる事ができない(書経・太甲中)

(和歌) 銭金や美服美宅を望むより、津波地震を  
思い出すべし

初 回

嘉永7年(甲寅)11月4日10時過ぎにわか  
に大地震おこり、瓦壁など崩れ、程なく津波が上  
がるということで老人幼児、家の物を縁者へ頼る  
人も多かった。当家の老母は69歳、この地震の  
恐れてすぐに東隣・橋本氏の娘子を引きつれ、明  
王院へ逃げ籠り、諸品を預け、残る雑物は蔵の二  
階に置いておいた。それから大小の地震が数度、  
或いは小さい津波がおこった。平時ではありえな  
い場所まで潮が満ち、干潟(?)へも満ち、分から  
ない事も多く、人々いよいよ心細くなったのだろ

うか、1人が逃げれば我も我もと後を追い、やす  
やすと村を離れ、小高い場所や縁も無い所へ逃げ  
延びていった。

夕暮れ時になって、空の色は通常ではなく、ま  
すます波際が高くなったが、村中の人はおおかた、  
諸道具を携えて逃げていった、番家内(?)は明王  
院へ行き、男2・3名が留守番に残った。中には  
強がりの者が「何の、津波が上がる事かい」と、家  
の物も出さず、その身も考えることなく「俺に任  
せろ」などと高言し、大きな顔をしていた。さて、  
いま自宅を離れ、どこにもあてが無いもの、ある  
いはとりとめなく野に去り、山に伏せ、雲気に侵  
され月もない夜の困難は、大きな喜びの瑞祥とす  
るが如く、実に戦国の世の様子も斯くやと思われ  
た。この夜子の刻(0時)過ぎ、また地震が起こり  
家に残っていた人も、門の外あるいは表へ飛び出  
し、夜が明けるのを今や遅しと待っていたのであ  
った。 (つづく)

\*\*\*\*\*

東日本大震災から8年です

大災害の「東日本大震災」から8年になります。  
まさか、あんな大津波が押しよせるとは思っても  
なかったが、現実の出来事でした。その8年目を  
前にして、いろいろの事が起っています。前ペー  
ジに書いたテレビ取材もそうですが、岩手県の釜  
石市、宮城県の石巻市が津波伝承施設をつくる為  
の問い合わせや視察がありました。津波防災の施  
設の先輩として参考にしてくれるのです。

また、館長は3月23日の「3・11メモリアル・ネットワーク」のシンポジウムへ招かれて、  
仙台で広川町の津波伝承の講演に行きます。あら  
ためて、「稲むらの火」の影響を感じています。

<稲むらの火の館の紹介>

濱口梧陵記念館/津波防災教育センター

〒643-0071 住所 和歌山県有田郡広川町広671

<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

\*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)

\*休館日：月曜日(祝日の場合は翌平日)

(世界津波の日の11月5日は開館)

年末年始(12/29～1/4)

\*記念館だけの入場は無料です

